

2026 年 8 月 10 日

*本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

*本資料に記載の装備、諸元データは、いずれもドイツで販売予定のもので、日本仕様とは異なります。

Audi A2 e-tron、アウディにおける効率性の新たな基準を設定

(ドイツ本国発表資料) 2026 年 8 月 4 日、インゴルシュタット：Audi A2 e-tron は、アウディ史上最も効率性が高いモデルです。この次期コンパクト電動モデルの 140kW 仕様モデルの暫定エネルギー消費量は、オプションのエフィシエンシーパッケージを備えると WLTP 測定値で 100km あたり 12.8kWh となります。これは、先進的なドライブテクノロジー、洗練されたエアロダイナミクス、および日常使用に最適化されたバッテリーにより実現したものです。

AUDI AG CEO ゲルノート デルナー (Gernot Döllner) は、次のように述べています。「Audi A2 は、1990 年代に私がフォルクスワーゲングループに入社して以来、私のキャリアにおいて常に変わらない存在であり続けています。当時も、その画期的な 3 リッター仕様は、効率性を特徴としていました。これこそが、新型 Audi A2 e-tron で推し進めるビジョンであり、卓越した効率性、優れた日常での使いやすさ、そして現代の電動モビリティに対するお客様の期待を明確に理解している表れです」。

Audi A2 e-tron 140kW 仕様エフィシエンシーパッケージ装着モデルの主な特徴

- エネルギー消費量 (暫定値) は、12.8kWh/100km (WLTP 測定値)
- 空気抵抗係数 (Cd 値) 0.24 - アウディのコンパクトラインナップのなかで最高レベルであり、エアロダイナミクス技術により、エネルギー消費量を最大 0.9kWh/100km 削減 (WLTP 測定値)
- パワーエレクトロニクス、電気モーター、トランスミッションの進化による高効率な電動ドライブ
- 61kWh のリン酸鉄リチウム (LFP) バッテリーは、最適化した冷却技術によりウォールボックスでの充電時に 89.6%の充電効率を実現
- 双方向充電：Vehicle-to-Load¹ および Vehicle-to-Home² が備わり、Audi A2 e-tron はエネルギー貯蔵システムとしても機能

エアロダイナミクス技術により、エネルギー消費量を最大 0.9kWh/100km 削減 (WLTP 測定)

約 100km/h 以上で走行する際、空気抵抗は車両のエネルギー消費全体の 50%以上を占めます。空気抵抗係数 (Cd 値) の低減は、電力消費量および航続距離の向上に直結します。空気抵抗係数 (Cd 値) 0.24 の Audi A2 e-tron 140kW 仕様エフィシエンシーパッケージ装着モデルは、アウディのコンパクトモデルの中で最高の空気抵抗係数 (Cd 値) を誇り、この強みを最大限に活かしています。

このボディは、丸みを帯びたフロントエンド、流れるようなルーフライン、そしてシャープに描かれたリヤを特徴とし、流線型デザインの原則に従っています。このデザインによって、従来のファストバックモデルと比較して空気抵抗が低減されます。フロントの側面には、気流を整流して乱気流を抑制するチャネルであるエアカーテンのほか、ホイールアーチ周辺の空気の流れを整えるギャップレデューサーおよびギャップブリーザーを採用しています。

Audi A2 e-tron は、アクティブクールエアインテークを特徴としており、通常走行時および高速走行時には閉じた状態を維持し、空気抵抗を低減して航続距離を最適化します。充電時や急加速時、または夏の暑さの中では、アクティブクールエアインテークが開きバッテリーとエレクトロニクスを保護します。

これらの対策により、エフィシエンシーパッケージを装着した Audi A2 e-tron 140kW 仕様のエネルギー消費量は、オプションを加えないモデルと比較して、最大 0.9kWh/100km 削減されます。したがって、このモデルは暫定で 12.8kWh/100km (WLTP 測定値) というエネルギー消費量を実現します。

アップグレードされたドライブシステムにより、効率が最大 10%向上

Audi A2 e-tron の電気モーターは、効率性と快適な乗り心地を追求して特別に設計された永久磁石同期モーターです。このドライブシステムは、お客様が期待する効率的なパフォーマンスを日常走行において提供します。違いを生み出しているのは、以下の 3 つの重要な進化です。

- パワーエレクトロニクス：従来のシリコン技術に代わり、炭化ケイ素（SiC）半導体を採用することで、特に部分負荷の状態でのスイッチング損失を大幅に低減します。可変スイッチング周波数により最大 20W の損失をカットし、さらに高度な変調技術によって、従来方式と比較して最大 33% のスイッチング損失を低減します。
- 電気モーター：積層鋼板の厚みを薄型化（0.3mm から 0.2mm へ）することで、鉄損を低減します。ステーター巻線をスター結線からデルタ結線に変更することで、より効率の良いモーター回転域で動作させることができます。
- トランスミッション：新しい低摩擦オイルを採用し、摩擦損失を顕著に低減します。より高い走行速度では、10.2:1 の高いギア比がモーター回転数を下げ、エネルギー消費量を削減します。

インテリジェントなオペレーションストラテジーを備えた高効率バッテリー

Audi A2 e-tron 140kW 仕様のバッテリーについて、アウディはセル トゥ パック（Cell-to-Pack）構造のリン酸鉄リチウム（LFP）セルを採用しています。セルをハウジングに直接接着することでパッキング密度を高められます。そして、より少ないスペースで、高電圧システムのエネルギー量とエネルギー密度を増加させます。LFP バッテリーはレアアースを必要とせず、他の多くのバッテリーよりも経年劣化が遅く、特に安全性が高いと考えられています。この耐久性のおかげで、これらのバッテリーは日常的に 100% まで充電することが可能です。また、安定して長い航続距離を実現します。

特徴的なフラットな電圧曲線のおかげで、このバッテリーは充電状態（SoC）が低下しても高い電圧を維持し、安定したパワー出力を実現します。これは総合的な評価において重要な要素です。つまり、効率性とは単にエネルギー消費量を低減することだけではなく、長期にわたって、そのパフォーマンスと使いやすさを確実に維持することでもあります。LFP テクノロジーは経年安定性が高く、日常の電動モビリティにとって優れた選択肢となります。

しかし、LFP バッテリーのセル化学は一要素にすぎません。最大の効率性の向上は、バッテリー、サーマルマネジメント、充電エレクトロニクス、およびソフトウェアの精緻な相互作用から生まれます。例えば、最適化された冷却技術により、ウォールボックスでの充電効率が 89.6% まで向上します。これはエネルギー損失の低減と、日常におけるより安定した充電動作が可能になります。

全体として、Audi A2 e-tron は、電気自動車における効率性が単なるハードウェアの改良だけで実現するものではなく、制御ストラテジーによるものが大きいことを証明しています。LFP バッテリーに特化したアルゴリズムが、充電状態（SoC）と劣化状態を正確に評価します。

Audi A2 e-tron は双方向充電にも対応しています。Vehicle-to-Load¹ は車両から外部機器に直接給電し、Vehicle-to-Home² は車両を家庭用エネルギー貯蔵システムとして使用することを可能にします。なお、利用にはアウディ推奨のチャージングボックス³が必要です。

よくある質問

Q：Audi A2 e-tron はどのようなバッテリーを使用していますか？

A：Audi A2 e-tron 140kW 仕様は、セル トゥ パック（Cell-to-Pack）構造のリン酸鉄リチウム（LFP）セルを採用しています。

Q：Audi A2 e-tron は双方向充電に対応していますか？

A：はい。Audi A2 e-tron は Vehicle-to-Load¹ および Vehicle-to-Home² の両方に対応しています。Vehicle-to-Home² は、ドイツ、オーストリア、スイスから利用可能になります。

Q：Audi A2 e-tron の空気抵抗係数はいくつですか？

A：Audi A2 e-tron 140kW 仕様エフィシエンシーパッケージ装着モデルの空気抵抗係数（Cd 値）は 0.24 です。エアカーテン、ギャップレデューサー、アクティブクールエアインテークといったエアロダイナミクス技術により、航続距離の延伸を実現します。

Q：Audi A2 e-tron のギャップリデューサーはどのような役割を果たしますか？

A：ギャップリデューサーは、ホイールアーチトリムに配置されたエアロダイナミクスの要素です。タイヤとホイールアーチの隙間を狭め、空気の流れをスムーズにし、乱気流を抑制します。これにより、空気抵抗を低減し効率性を向上させます。

Q：Audi A2 e-tron のデビューはいつになりますか？

A：アウディは 2026 年秋に新型 Audi A2 e-tron を発表し、コンパクトクラスにおける電気自動車エントリーモデルとしてポートフォリオに加わります。

¹ Vehicle-to-Load を使用する際、高電圧バッテリーの充電レベルが 20%以上である必要があります。

² 車両と家庭用電力網の間の電力伝送は、バッテリーの充電レベルが 20%から 80%の間にある場合のみ可能です。バッテリーの充電レベルがこの範囲内にある場合は、充電場所に設定された充電および放電の制限が考慮されます。バッテリーの充電レベルが 20%未満の場合、車両は充電のみを行います。バッテリーの充電レベルが 80%を超える場合、車両は放電のみを行います。

³ ご家庭の既存の電気設備によっては、追加のハードウェアが必要になる場合があります。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

お客様お問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120-598106



アウディについて

アウディは、インテリジェントで電動化された製品を通じて変革を推進し、未来のモビリティを創造しています。このプレミアム自動車ブランドは、世界 100 以上の市場で展開されています。そのグローバルな生産ネットワークは 12 カ国 21 拠点に及び、8 万 8,000 人以上の従業員が Vorsprung durch Technik（技術による先進）の精神のもと結束し、勇気、情熱、責任、そして信頼により、100 年以上にわたる自動車製造の伝統を未来に向けて再解釈しています。2026 年、アウディはモータースポーツの DNA を大胆に体現すべく、ファクトリーチームとして Formula 1 に参入します。

また、アウディ グループには、スーパーカーメーカーのランボルギーニ、ラグジュアリーブランドのベントレー モーターズ、そしてモーターサイクルメーカーのドゥカティが含まれます。

アウディ グループの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。
